

## 基本理念

**医の心**

- 患者さんの悩み、苦しみ、痛みに共感する心
- 患者さんに慰めの手、いたわりの手が自然に出る心
- 患者さんのためによくす心
- 患者さんに眞実を伝えて納得同意を得るように努める心

- 一、私たちは“地域医療支援病院”として、医師会会員ならびに各医療機関との医療連携をもとに、高い医療レベルを堅持、地域医療の向上に貢献します
- 二、私たちは患者の立場を尊重し、その信頼と期待に応え、誠実に“心ある医療”を心がけます
- 三、私たちは、変革する医療情勢に対処しながら、地域住民の福祉・保健医療サービスの確立に努め、医療センター内外に積極的に活動します
- 四、私たちは、職員としての“誇りと責任”を自覚し、つねに自己研鑽を重ね、互いに協力して、医療センターの発展に努めます

一般社団法人 天草都市医師会立

# 天草地域医療センター

| 外来診療一覧表<br>令和元年9月現在 | 診療科目      | 月                  | 火   | 水           | 木        | 金           | 受付時間                                        |
|---------------------|-----------|--------------------|-----|-------------|----------|-------------|---------------------------------------------|
|                     | 脳神経外科     | 植村・坪田              |     |             | 植村・坪田    |             | 7:30~11:30<br>※急患については24時間対応                |
| 一般外来                | 外 科       | 原田・吉仲・高田           |     |             | 原田・吉仲・高田 |             |                                             |
|                     | 整 形 外 科   | 大江・堀内              |     | 堀内・前川       |          | 大江・山田       |                                             |
|                     | 循 環 器 科   | 境野・永吉              |     | 境野・永吉       |          | 境野・花谷       |                                             |
|                     | 消化器内科     |                    |     | 坂井          | 藏野・中島    |             |                                             |
|                     | 代 謝 内 科   | 平島                 | 平島  | 佐竹          | 平島・佐竹    | 平島・佐竹       |                                             |
|                     | 放 射 線 科   |                    | 担当医 |             |          |             |                                             |
|                     | 泌 尿 器 科   | 陣内                 | 脊川  |             | 原田(成)    |             |                                             |
|                     | 呼吸器内科     |                    | 廣重  |             | 廣重       |             |                                             |
|                     | 総合診療科     | 高杉                 | 鶴田  | 高杉          | 鶴田       | 高杉          |                                             |
| 小児科外来               | 小 児 科     | 吉田(史)<br>服部        | 渡邊  | 吉田(史)<br>服部 | 服部       | 吉田(史)<br>渡邊 | 8:00~11:30<br>13:45~16:00<br>※急患については24時間対応 |
| 特殊外来                | 神 経 内 科   | 月 4 回 土曜日          |     |             |          |             | 8:00~11:30<br>予約制                           |
|                     | リウマチ膠原病内科 | 月 1~2回 土曜日         |     |             |          |             |                                             |
|                     | 消化器内科     | 月 2 回 土曜日          |     |             |          |             |                                             |
|                     | パーキンソン外来  | 月 1 回 土曜日(再診のみ) 後藤 |     |             |          |             |                                             |

(平成30年1月4日~外来日割り用)

## 当センターへのご案内図



## 診療科のご案内



# ごあいさつ

院長 原田 和則

天草地域医療センターの設立理念は「天草地域の高度医療を支える中核病院として、既存の病院及び診療所と連携して地域住民に医療サービスを提供する一方、紹介外来型・開放型及び共同利用型病院として、病々・病診連携のモデル作りをめざす。また、医師会員及び医療従事者の研究及び研修の場としても活用を図る。」となっております。平成4年開設以来この理念に則り、熊本市との医療格差の是正、天草医療圏の中核病院として高度・救急医療体制の確立、高齢化社会に向けての新しい保健・医療サービス体制の確立に努めてきました。

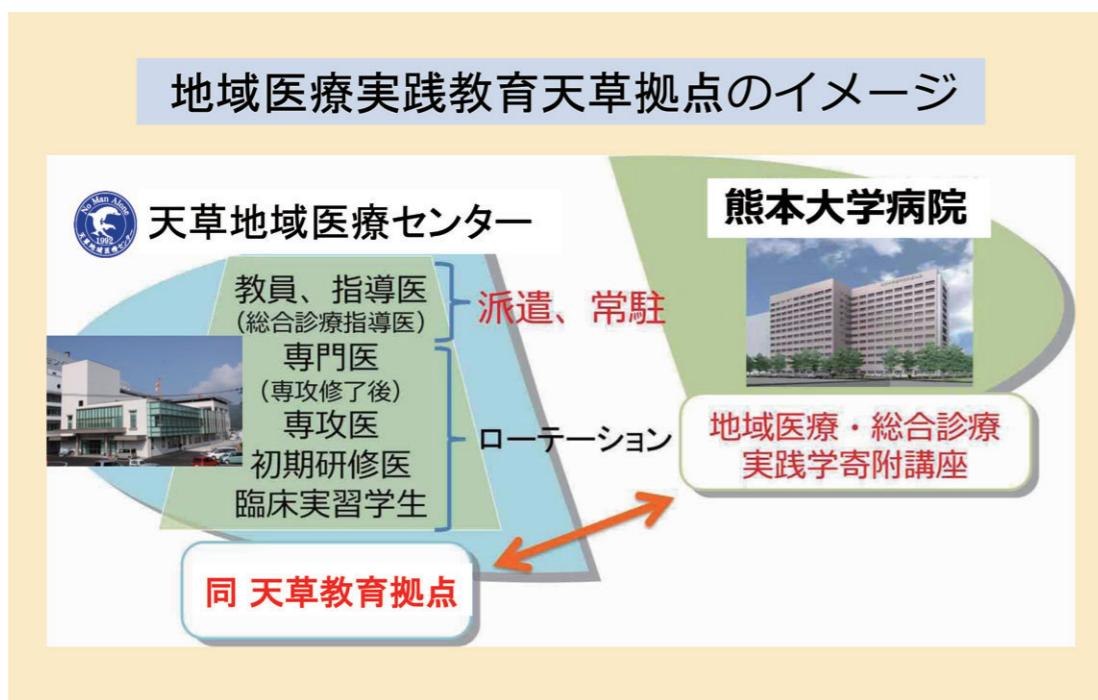
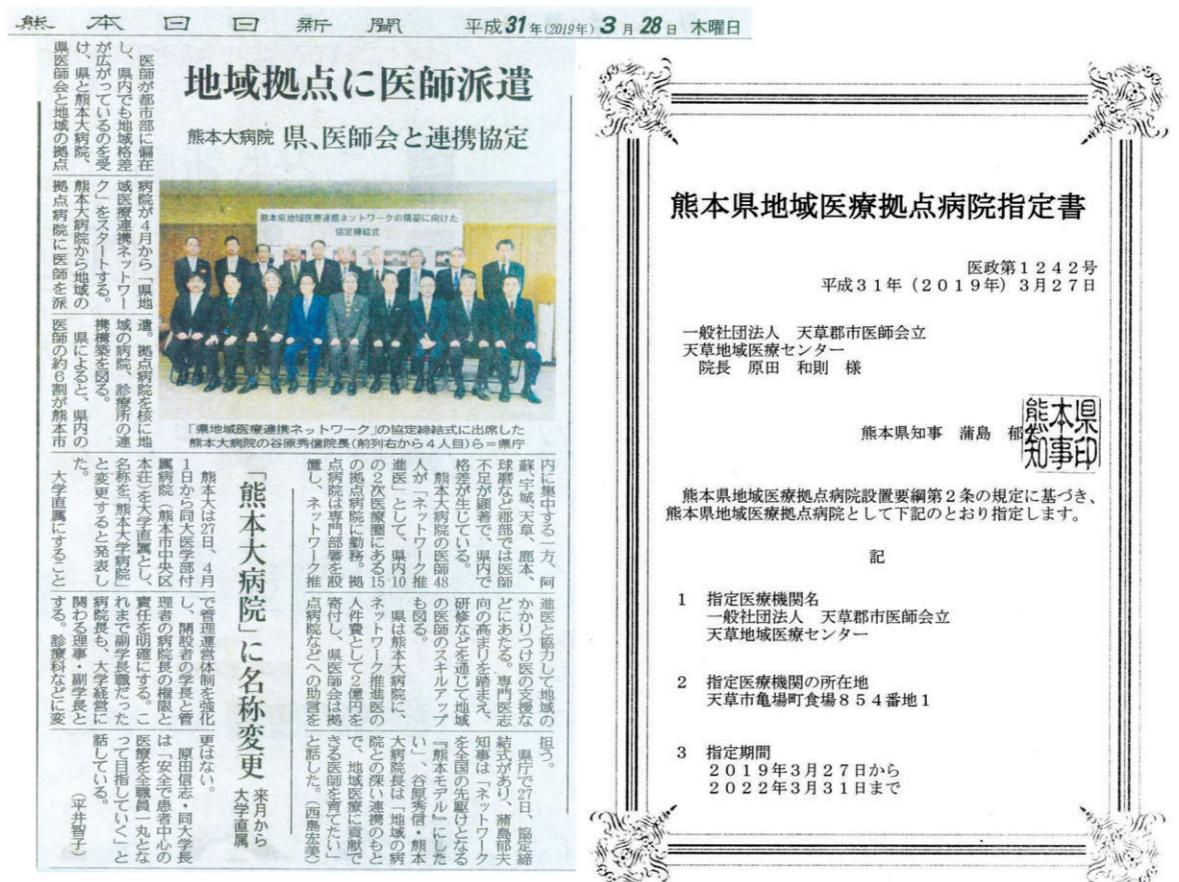
県内第一号の「地域医療支援病院」として、医師会会員ならびに各医療機関との強力な医療連携のもとに、高い医療レベルを堅持し、第7次医療計画「5疾病5事業および在宅医療」にもコミットして地域医療の向上に邁進しております。主な公的認定関連では地域医療支援病院、小児救急医療拠点病院、開放型病院、緊急告示病院、脳卒中急性期拠点病院、急性心筋梗塞急性期拠点病院、県指定がん診療連携拠点病院、糖尿病対策拠点病院、肝炎治療中核病院などがあり、各科の関連学会では多くの専門医認定指導施設としても認定されています。研修医の育成機関としても「基幹型臨床研修病院（年度別定員4）」として将来の医療を担う若手医師の臨床教育に熱意を持って指導育成しています。さらに今年度からは「熊本県地域医療拠点病院」、「地域医療実践教育天草拠点」とともに指定され、県および熊本大学病院とタイアップしながら、これまで以上に天草医療圏の地域医療の拠点施設としての重責を担うこととなりました。

本年4月に開設された「地域医療実践教育天草拠点」の概要は、熊本大学の地域医療・総合診療実践学寄附講座の教員が常駐して、地域医療を志す医師、研修医及び医学生に対し、実践教育の場を提供するとともに、拠点が設置された病院の診療を支援することで、地域の医師

不足の解消に資することを目的とします。その一環で新たに総合診療科を新設し、外来・入院・在宅医療に取り組んでいます。指導医は常時2名が在籍し、研修医・専攻医と共に診療を実践しつつ、教育を行います。地域医療研修教育機関としての機能と共に、地域の医師不足解消を使命とし、より多くの研修医・専攻医及び医学生に学習の場を提供することとなっています。また「熊本県地域医療拠点病院」については、その求められる取組として、天草地域の医療連携体制づくりの中心的な役割を担うことと指示されており、具体的には①紹介患者に対する医療提供、②へき地診療所への医師派遣等による地域かかりつけ医の支援、③地域の研修医・専攻医への教育とされます。

以上のように、医師、職員一同地域住民の健康、幸せのために今後ともしっかりとその責務を担っていく覚悟です。またその一方、「働き方改革」の問題では、あらゆる急性期疾患に24時間体制で対応する地域の中核病院として、日夜頑張ってくれている医師への負担も大きく困難な問題も山積するなか、勤務環境改善に向けた取組み、メンタルヘルスケアの充実などを踏まえながら改善に取り組んで行くことも大きな課題です。

天草地域医療センターの役割は、地域住民の健康のためにより良い医療、保健、福祉を提供することにつきます。とくに「天草地域医療センター」は医師会立の施設であり、医師会員の皆様によって支えられ運営される施設です。お届けしました「診療案内」を参考に今後とも多くの病める方々を気軽にご紹介いただければと念じている次第です。倍旧に増してのご支援をよろしくお願い申し上げます。



## 脳神経外科

脳神経外科は植村総院長、坪田、高島の3名で診療にあたっております。脳神経外科疾患は、脳内出血、脳梗塞、頭部外傷など救急医療を要する疾患が多くを占めていますが、救急医療に対しては、常に緊急手術や脳梗塞に対するt-PA治療が行えるよう取り組んでおります。ほかにも脳腫瘍や機能的疾患、頸椎症に対しても手術を行っております。超高齢の患者さんや、状態の厳しい患者さんも増加しておりますが、諦めない医療を心がけております。『天草全土の急性期脳疾患患者は全て当科で診る。』をモットーに24時間、365日、対応できる体制をとっております。特別な治療(脳血管内手術)をする場合は熊本大学と連携を、また特殊な神経疾患(変性疾患)に対しても神経内科専門施設と連携を取り治療を行う支援体制が整っております。脳神経外科学会にも積極的に参加して、最新の治療法の取得や学会発表を行い、また定期的に近隣の医療機関の医師と神経放射線カンファレンスを行い、症例検討を行うことで、常に高品質の医療を患者様に提供出来るよう努力しております。

### 症例数・治療・成績

病棟は常に約30名前後が入院し、平成29年度の入院患者は487名で、主な内訳は脳血管障害275名、頭部外傷71名、てんかん21名、水頭症8名、脊椎・脊髄疾患9名です。手術数は95件で、主な疾患では脳動脈瘤頸部クリッピング術5件、開頭血腫除去術23件、減圧開頭術14件、慢性硬膜下血腫穿孔洗浄術23件、脊椎固定術6件、水頭症手術5件、脳血管内手術3件です。全ての手術について、自然歴、治療方法、治療リスクなど丁寧に説明し、慎重に手術適応を決定します。

## 循環器科

当院循環器内科は現在4人体制で診療にあたっています。

当科の特色として心筋梗塞、不安定狭心症、徐脈性失神などの急性期疾患があります。このため24時間365日心臓カテーテル検査、治療ができる態勢を取っています。昨年度の実績として140件のカテーテルインターベンション治療(緊急71件)、76件のペースメーカー植え込み術(新規植え込み62件)を行いました。低侵襲、再発リスクが低い治療を心がけています。

高齢化に伴い心不全の急増が危惧されています(心不全パンデミック)。心不全の症状は息切れ、動悸、むくみだけでなく食欲低下や倦怠感など症状がはっきりしないことも珍しくありません。虚血性心疾患、心筋症、代謝障害、栄養障害など多彩な機序が心不全に関わっています。急性期治療、原因解明、リハビリテーション、再発予防など課題は多くあります。特に慢性期の管理につきましてはかかりつけ医の先生方と密な連携を構築していくたいと考えています。



『天草全土の急性期脳疾患患者は全て当科で診る。』をモットーに24時間、365日、対応できる体制をとっております。特別な治療(脳血管内手術)をする場合は熊本大学と連携を、また特殊な神経疾患(変性疾患)に対しても神経内科専門施設と連携を取り治療を行う支援体制が整っております。脳神経外科学会にも積極的に参加して、最新の治療法の取得や学会発表を行い、また定期的に近隣の医療機関の医師と神経放射線カンファレンスを行い、症例検討を行うことで、常に高品質の医療を患者様に提供出来るよう努力しております。

### 症例数・治療・成績

病棟は常に約30名前後が入院し、平成29年度の入院患者は487名で、主な内訳は脳血管障害275名、頭部外傷71名、てんかん21名、水頭症8名、脊椎・脊髄疾患9名です。手術数は95件で、主な疾患では脳動脈瘤頸部クリッピング術5件、開頭血腫除去術23件、減圧開頭術14件、慢性硬膜下血腫穿孔洗浄術23件、脊椎固定術6件、水頭症手術5件、脳血管内手術3件です。全ての手術について、自然歴、治療方法、治療リスクなど丁寧に説明し、慎重に手術適応を決定します。

## 循環器科

当院循環器内科は現在4人体制で診療にあたっています。

当科の特色として心筋梗塞、不安定狭心症、徐脈性失神などの急性期疾患があります。このため24時間365日心臓カテーテル検査、治療ができる態勢を取っています。昨年度の実績として140件のカテーテルインターベンション治療(緊急71件)、76件のペースメーカー植え込み術(新規植え込み62件)を行いました。低侵襲、再発リスクが低い治療を心がけています。

高齢化に伴い心不全の急増が危惧されています(心不全パンデミック)。心不全の症状は息切れ、動悸、むくみだけでなく食欲低下や倦怠感など症状がはっきりしないことも珍しくありません。虚血性心疾患、心筋症、代謝障害、栄養障害など多彩な機序が心不全に関わっています。急性期治療、原因解明、リハビリテーション、再発予防など課題は多くあります。特に慢性期の管理につきましてはかかりつけ医の先生方と密な連携を構築していくたいと考えています。



## 外 科

院長以下6名のスタッフ(院長:原田、副院長:吉伸、診療部長:高田、外科部長:澤山、副部長:坂田、医員:平尾)で消化器(食道、胃、大腸、肝・胆・脾)疾患の外科診療はもとより、呼吸器外科(肺癌、気胸など)、内分泌外科(乳腺、甲状腺など)、一般外科(ヘルニアなど)救急外科(交通外傷など)など多領域にわたり外科全般の診療を行っております。近年は400件程度の手術症例で平成29年度は413件でした。

当院は熊本県指定のがん診療連携拠点病院でもあり、癌手術は食道癌、胃癌、大腸癌、乳癌、甲状腺癌、肺癌などの他に肝・胆・脾領域癌の手術も行っております。

患者さんの負担を減らすために平成26年度から腹腔鏡下手術を導入しました。腹腔鏡下手術は開腹手術に比べ傷が小さく、手術後の痛みが軽い、癒着しにくい、入院期間が短いなどの利点があります。

悪性腫瘍の鏡視下手術では胃癌、大腸癌などを中心におこなっており、昨年度は胃癌24例中15例、大腸癌は49例中43例を腹腔鏡下手術で行っております。

良性疾患では胆石・癒着性イレウス・ヘルニア・虫垂炎などの大部分は腹腔鏡下で行っております。

また熊本大学呼吸器外科鈴木教授のご協力のもと肺癌も可能な限り胸腔鏡補助下の肺切除がおこなえるようになりました。昨年は6件の胸腔鏡補助下肺葉切除を行っておりました。

癌の診療は外科治療に限らず、化学療法や緩和医療にも力を入れています。外来棟の2階に広くゆったりとした外来化学療法室があり、快適な環境で行えるようになっています。

開放型の病院としては、患者さんに最良の治療ができるように医師会の先生方としっかりと連携を維持できるように努力しています。またより気軽に相談していただき、顔が見える関係が築けるように昨年から月1回の消化器症例検討会(臨床病理カンファレンス)を開催しております。参加御希望の先生はご連絡いただければ幸いです。

毎週木曜日には消化器内科と、隔週水曜日には放射線科と合同カンファレンスを行い手術症例などについて検討を行っています。また外科の病棟並びに術前カンファレンスを毎週木曜日に行っております。

天草地域の特徴としてご高齢の患者さんが多く、それぞれの患者さんの病態に応じた最良の治療法を選択するように引き続き心がけて日夜努力しています。



## 整形外科

現在4名の整形外科指導医で日常診療にあたらせてもらっています。(月)(水)(金)の午前中を通常外来と定めています。定期の手術日は(火)(木)ですが、他科の手術が入っていない時間を探し他科と相談の上、随時行っています。

手術症例はここ数年は、年間600例越えで推移しています。高齢者の大腿骨転子部、頸部骨折、各種外傷の治療から股関節、膝関節等の変性疾患に対して人工関節置換を行い除痛をはかる等多岐に渡る手術を行っています。特に高齢者的大腿骨近位部骨折に関しては、麻酔科の先生のご理解もいただき準緊急手術と位置付け観血的加療を積極的に行っていましたが、昨年度は、麻酔科常勤医師が一人になるという病院としては、緊急自体が起こり準緊急手術の大腿骨近位の手術が入らず、天草の他院へお願いしたり熊本市内へ搬送をお願いしたりと本末転倒な事態となりました。手術が入らず、昨年度は、当科の手術室での手術症例が、約一割、減少となりました。手術室でていたピンニングを透視室で行ったり、広範外傷を局所麻酔のみで救急外来で行ったりと色々工夫はしたのですが、天草圏内の先生方並びに熊本市内の同門の先生方へ大変ご迷惑をお掛けしました。天草の事は天草でと考えていますが、今後もこのような事態が起こる事があるかと思います。ご理解の程よろしくお願いいたします。

脊椎外科に関して当院では、頸椎は脳外科で行っていますが、当科で扱うべき胸腰椎の手術は専門医が不在と言う問題もあり、熊本市内や八代市の先生へお願いしているのが現状です。

救急や緊急手術に対して休日でも24時間対応出来るように常時2人体制でローテーションを組んで対応しています。

整形外科の取り扱う疾患は多岐に渡りますが、地域の先生方との連携を大切に迅速な対応を心掛けております。外来時間外の救急患者さんに対しては、スタッフの調整を事前に行う必要があるため、迅速に患者さんの診療に当たれるように、電話連絡を頂けると助かります。今後ともよろしくお願いします。

## 麻酔科

当院では年間約1300件の手術を行っており、そのうち麻酔科管理症例は主に脳神経外科、外科、整形外科、泌尿器科で年間1100件ほどです。ここ数年はほぼ横ばいとなっています。最近の手術の傾向としては鏡視下の手術が増加しており、以前と比べ患者さんとては侵襲の少ない手術が行えるようになっていると思います。その反面手術時間は以前より長くなる傾向にあり、以前と比べ件数以上に手術麻酔に専念せざる得ない状況です。そのためペインクリニックや集中治療等の麻酔科が以前関与していた分野の診療が出来ない状況が続いており各科の先生方や天草医師会の諸先生に負担がかかっていると思うと恐縮です。

現在のところ熊本大学、麻酔科同門の先生の応援を頂きながら24時間365日、緊急手術に対応できる体制を維持できています。

1人で出来る仕事は限られていますが、天草の皆さんのが、安心して手術を受けられるように安全かつ苦痛の少ない麻酔を行うように心がけています。



## 消化器内科

消化器内科は、土曜日特殊外来として、熊本大学消化器内科から非常勤の派遣が始まり、現在も月2回ではあります。特殊外来を継続しています。平成21年4月からは常勤医の診療も始まり、10年目となります。1年目は二人体制でしたが、平成22年からは3人体制となり、平成28年より、期間限定ですが、現在4人体制で診療させて頂いています。診療内容は、消化器疾患を外科と連携し行っています。

消化管は、上下部内視鏡検査・NBI拡大内視鏡検査により食道・胃・十二指腸・大腸の腺腫や癌、胃十二指腸潰瘍、炎症性腸疾患(潰瘍性大腸炎やクロhn病など)等の診断並びに治療を行っています。大腸ポリープ切除や早期の食道癌・胃癌・大腸癌に対しては内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)や内視鏡的粘膜切除術(EMR)などの内視鏡治療を行っています。食道静脈瘤に対し破裂予防として内視鏡的硬化療法(EIS)・内視鏡的静脈瘤結紮術(EVL)や破裂時のEVLを行っています。胃潰瘍、十二指腸潰瘍などによる緊急内視鏡的止血術も行っています。

肝疾患については、C型慢性肝炎に対し、90%以上でHCV排除が可能な経口薬による抗ウイルス療法を始め、B型慢性肝炎はインターフェロン療法や、核酸アノログ製剤による治療、肝細胞癌に対し診断や治療(分子標的治療薬や肝動脈塞栓療法(TAE))を放射線科と協力し行っています。その他にも、現在、増加傾向である非アルコール性脂肪肝炎(NASH)や特殊な自己免疫性肝炎や原発性胆汁性肝硬変なども診療しています。

胆道・膵疾患に対しては、内視鏡的逆行性膵胆管造影(ERCP)を行い、膵癌や胆道癌の診断や、内視鏡的乳頭括約筋切開術(EST)を行い、採石や種々の原因で起こる閉塞性黄疸に対し精査と共に減黄術も行っています。経皮経肝胆道ドレナージ(PTCD)、メタリックステント留置術も行っています。

以上のように、消化器疾患を全般的に行っています。外科とも密接な連携をとることで、患者様が、より安全に、そして、より安心して治療を受けて頂けるよう心がけ、頑張っていきますので、これからもよろしくお願い致します。

### 当院での最近の内視鏡件数

|          | 2017年 | 2016年 | 2015年 | 2014年 |
|----------|-------|-------|-------|-------|
| GF       | 2051  | 2050  | 1951  | 1975  |
| 食道 ESD   | 7     | 4     | 6     | 7     |
| 胃 ESD    | 51    | 51    | 38    | 41    |
| 十二指腸 ESD | 1     | 2     | 1     | 1     |
| EIS・EVL  | 3・18  | 4・10  | 0・2   | 1・15  |
| CF       | 1288  | 1356  | 1319  | 1223  |
| 大腸 ESD   | 19    | 25    | 20    | 16    |
| ERCP     | 226   | 250   | 244   | 240   |



# 代謝内科

代謝内科は、糖尿病、代謝、内分泌疾患全般の診療と治療を行っています。

主な対象疾患は、糖尿病、脂質代謝異常症、バセドウ病、橋本病、原発性アルドステロン症、クッシング症候群などです。

当院は糖尿病学会の糖尿病専門医育成のための認定教育施設です。

外来診療日は以下の通りです。新患受付は午前11時30分まで、原則紹介状が必要です。

|      | 月曜日 | 火曜日 | 水曜日 | 木曜日 | 金曜日   |
|------|-----|-----|-----|-----|-------|
| 代謝内科 | 平島  | 平島  | 佐竹  | 佐竹  | 平島・佐竹 |

## ①糖尿病管理

管理中の糖尿病患者数は800名以上です。年間入院患者は200名程度です。管理栄養士が、外来や入院で栄養指導を行っています。糖尿病認定看護師や糖尿病療養指導士が、糖尿病療養指導を行っています。透析予防の指導、フットケアなど個人にあわせたテラーメドの糖尿病療養指導を行っています。

## ②糖尿病地域連携

天草地域の糖尿病連携医の先生と、二人主治医制の循環型連携を行っています。現在50名以上の糖尿病連携患者さんいます。

## ③外来インスリン導入、糖尿病指導

糖尿病療養指導士や認定看護師が、外来でのインスリン導入のお手伝いをします。

## ④妊娠糖尿病の管理

近医産婦人科と連携し、妊娠糖尿病患者さんの管理も行っています。

## ⑤在宅での糖尿病管理

ケアマネージャー、デイケアセンター、訪問看護、調剤薬局の訪問薬剤師、訪問歯科医師、訪問歯科衛生士などとICT(クラウド型のSNS)を用いた連携を行っています。

## ⑥糖尿病教室と市民講座

年間10回の糖尿病教室を開催しています。

年1回は保健所、天草市、天草地域の医療施設と協同で市民講座を開催しています。

## ⑦天草糖尿病ウォークラリー開催

糖尿病啓蒙活動の一環として、年に1回糖尿病ウォークラリーを開催しています。

## ⑧無料血糖測定と健康相談

天草市の健康フェスタなどで、無料血糖測定と健康相談を行っています。

## ⑨糖尿病無料出前講座

市民、事業所、医療施設の希望に応じ、無料で出前講座を行っています。

開催場所の確保をお願いいたします。ご希望の際はメールでお問い合わせ下さい。

## ⑩多職種合同ワークショップ

薬剤師会と共に、多職種(学生、事務職、介護士、医療ソーシャルワーカー、理学療法士、作業療法士、看護師、保健師、薬剤師、栄養士、医師など)合同ワークショップを開催しています。ホームページに案内を掲載します。

## ⑪天草キリストン館ブルーライトアップ

毎年11月14日を含む糖尿病週間の1週間、天草キリストン館をブルーにライトアップしています。

## ⑫天草生活習慣病研究会

糖尿病、腎臓病、肝臓病、高血圧などの全国的に有名な先生方をお招きし、講演会を開催しています。天草都市医師会と協力して、年数回開催しています。

## ⑬天草地域糖尿病療養指導士会(CDEK)の活動

天草地域糖尿病療養指導士の育成と活動を支援しています。ホームページに案内を掲載しています。

## ⑭ホームページの開設

他にもいろんな活動を行っています。

詳しくはリンク先のホームページをご覧下さい。 <http://hp.amakusa-web.jp/a0655/MyHp/Pub/>

お問い合わせ先:metabo@amed.jp

# 放射線科

放射線科では、多種多様な医療機器を駆使して、診断・治療に寄与する画像の作成および画像診断レポート作成を主な業務としています。そのほか、肝細胞癌に対する治療や出血に対する止血術、ドレナージなども積極的に行ってています。

## CT検査

これまでのPhilips社製の256 sliceのMDCTであるBrilliance iCTに加えて、2017年2月にSiemens社のDual Source CTであるSOMATOM Driveが、国内一号機として導入されました。Driveは、大きな出力を有する管球および128 sliceの検出器を2つ搭載しています。Dual Source CTでは、これまで以上のCT装置に対して、超高速での撮影が可能となりました。冠動脈CTでは、これまで以上にきれいな画像を得ることができる様になりました。状態不良の患者様や認知症の患者様の様な、息止めが困難な患者さまでも、良好な画質を提供可能になりました。その他、Dual Energy CTによる物質弁別や低管電圧撮影による造影剤低減などもこれまで同様に可能です。低管電圧撮影では、これまで以上の造影剤低減が可能になりました。また、もともとの画質が優れているために、患者様の被ばく量についても、より少なくする事が可能になりました。iCTもハイスペックな機械であり、逐次近似再構成などを駆使して、これまで同様に良好な画質を保ちながら、低管電圧撮影、低被ばく撮影が可能です。

## MRI検査

Philips社製の3.0T MR装置であるIngenia 3.0T、Siemens社製の1.5T MR装置であるMAGNETOM Avantoが稼働しています。3.0TのMR装置は、1.5TのMR装置よりも、強い磁場を利用して信号も強く、良好な画質を得ることができます。アーチファクトに弱い弱点もあります。対照となる検査部位および患者様の状態次第では、1.5T MR装置での撮影を行っています。また、MR対応ペースメーカーは、ほとんどが1.5T対応ですので、1.5T MR装置での検査となっております。認知症関連の検査で、脳の萎縮を定量的に評価するVARADについては、1.5Tでの検査になります。なお、MRI検査については、CTと異なり目的とする病変や領域などの制約がある場合が多いため、検査内容について不明な点がある場合には、放射線科までご一報いただければ幸いです。

3.0T MR装置については、共同研究契約を締結していますので、通常の病院ではできない検査も行っています。

## IVR (vascular IVR, non-vascular IVR)

当院では、IVR-CT装置として、上記のiCTにSiemens社製の血管造影装置のAXIOM Artis-Uを組み合わせた装置を用いて治療、検査を行っています。肝臓癌に対する肝動脈化学塞栓療法(TACE)、外傷などによる出血に対する止血術、動脈瘤コイル塞栓術などの他、肺腫瘍に対するCTガイド下経皮的肺生検、腹腔内の腫瘍などに対するCTガイド下経皮的生検、CTガイド下膿瘍ドレナージ、CTガイド下RFAなども行っています。近年では、画像ガイド下でのnon-vascular IVRへの要求が高く、検査・治療件数が飛躍的に増加しています。

## その他

当科では、Drive導入にあたり、超低線量での胸部CT検査も開始しております。具体的には、胸部単純CT検査を、胸部単純写真数枚の被曝量にて行います。胸部単純CT検査は、胸部単純写真と異なり、高い空間分解能を有しており、小さなGGNなども検出可能です。詳しくは、検診センターへお問い合わせください。



放射線科部長  
吉田 守克  
(H16年卒)



放射線科医師  
溝尻 智大  
(H26年卒)

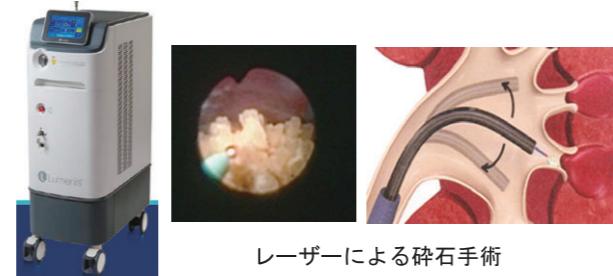
## 泌尿器科

当院泌尿器科では泌尿器科全般と血液浄化療法を担当しております。

泌尿器科領域では尿路悪性腫瘍(腎細胞癌、腎盂尿管癌、膀胱癌、前立腺癌、精巣癌)を中心に、尿路結石、下部尿路機能障害、炎症性疾患などの診療を行っています。泌尿器科手術では腎腫瘍・腎盂尿管腫瘍・副腎腫瘍などに対する腹腔鏡手術・開腹手術や、膀胱腫瘍・前立腺肥

大症・尿路結石などに対する経尿道的内視鏡手術を中心に行っております。平成30年4月には天草地域で初めて尿路結石破碎用のレーザー機器を導入し、これまで常時行うことができなかつた尿路全般の結石手術(f-TUL PNL)が天草地域でも可能となりました。症例数は年々増加傾向であり、平成30年度の手術件数は約250件でした。その他、近年増加の著しい前立腺癌に対する前立腺針生検も週2回行っております。

血液浄化部門では内シャントを中心としたバスキュラーアクセス造設術を行っております。シャント狭窄・閉塞に対してはPTA(経皮的血管形成術)も積極的に行っております。急性期病院という性質上血液透析のみではなく、CHDF(持続血液濾過透析)やエンドトキシン吸着などの急性血液浄化も行っております。



レーザーによる碎石手術

## 呼吸器内科

呼吸器内科は平成30年11月より常勤医師1名による診療を開始しました。

外来診療は火曜日、木曜日ですが、急患はこの限りではありません。

主な対象疾患は肺炎、非結核性抗酸菌症などの感染症、肺癌、気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患、間質性肺炎、急性呼吸促迫症候群などです。

肺炎に関しては他科の医師に協力していただきながら診ています。

肺癌に関しては気管支鏡検査、CTガイド下肺生検(当院放射線科に依頼)で診断し、化学療法、手術(当院外科)を行っています。ただし、一人体制ですので、患者様の不利益にならないよう、熊本市内への病院への紹介も行っています。

急患に関しても可能な限り対応させていただきます。

天草地域の呼吸器診療に少しでも貢献できるよう努力いたしますので、今後ともよろしくお願いいたします。



## 総合診療科

総合診療科は、平成29年10月より天草地域医療センターにて外来診療を行っておりましたが、平成31年4月より、熊本大学附属病院地域医療・総合診療実践学寄附講座より3名が常勤医師として赴任し、外来・入院診療を担当させていただいております。

総合診療科は、本年度から開始された日本専門医機構による新専門医制度で新たに総説された19番目の基本領域専門医でもあります。

総合診療科は、様々な健康問題に対して、特定の診療科、専門領域、臓器や疾病だけに係わらず、全人的に、包括的な診療を提供する診療科です。身体のどの臓器の問題なのか明らかでない、あるいは多彩な訴えや症状があり受診すべき診療科が明らかでない、といった成人の患者さんを総合的に診療させていただきます。必要に応じて専門診療科をご紹介させていただく場合や、総合療科で継続して診療をさせていただく場合もあります。診療科の特性として、身体的な問題のみならず、心理的要因や社会的要因がもたらす健康への影響についても、可能な限り対応いたします。

このような方は、お気軽にご相談下さい。

- ・症状の原因となる臓器や異常が分からぬ。(倦怠感、発熱、体重減少、むくみ、様々な所の痛みなど)
- ・いろいろな症状があり、どの診療科を受診すればよいか分からない。(複数の診療科が該当する場合や、複数の症状や疾患をお持ちのご高齢の方など)
- ・現在かかっている病気に対する相談(専門的な説明が分からぬ、薬や治療のことで分からぬなど)
- ・治らない病気で困っている(がん、慢性進行性の病気、老化や疾患の今後に関わる問題など)
- ・健康問題での不安がある(健康診断で異常、健康問題を害する生活習慣の改善、医療サービスの利用など)

受診ご希望の方は、かかりつけ医の先生に紹介状を書いていただき、ご予約下さい。



## 小児科

3名のスタッフで日常診療を行っております。当科は天草医療圏の中核的な役割を担っており、特に入院治療や精査の必要な急性期疾患、並びに慢性期疾患の患児を主に対応しております。一般感染症から内分泌代謝疾患、てんかんなどの神経疾患、アレルギー疾患、循環器疾患、腎疾患、先天異常など守備範囲は広く多岐に渡りますが、重篤な疾患や高い専門性が必要な疾患の際には熊本大学や熊本赤十字病院などと密に連絡を取りながら対応しています。

重症児に対応し一人一人に十分な時間を確保するため、日常診療は原則紹介制とさせて頂いておりますが、地域の先生方のご協力によって成り立つており大変感謝しております。

みんな子供好きで天草地域の小児医療に貢献できればと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。



# 【特殊外来】

## リウマチ膠原病内科

- 診療日:月1~2回／土曜日
- 担当:中村 正医師(S55年卒／桜十字病院)

「リウマチ膠原病」とは聞きなれない病名ですが、体の抵抗力を司る免疫機構に異常を来たし発病する全身性の病気です。その代表が関節リウマチで、日本に約100万人の患者があり、男女比は1対4、中年女性に好発します。関節破壊は関節を包んでいる滑膜の炎症で始まり、炎症性滑膜が増殖し、軟骨・骨を破壊し、関節の変形を起こします。病変は当初は関節ですが、時間と共に肺や腎臓、眼、皮膚、心臓など全身臓器に及びます。関節の機能障害や全身合併症のために日常生活に支障を来たし、生活の質が低下、寿命も短くなります。かつて「治らない難病」と呼ばれていましたが治療法が大変革を遂げ、メトトレキサートや生物学的製剤の出現で、関節リウマチによる炎症、ひいては関節破壊を防ぐことができるようになりました。

早期に関節リウマチを診断し、適切な時期に適切な治療を行えば、日常生活を普通に送ることができます。関節リウマチ以外のリウマチ膠原病も様々な面で進歩が見られています。このような医療の進歩を地域住民が等しく享受できるように、当センターで活動しています。

## 消化器内科

- 診療日:月2回／土曜日[熊本大学医学部附属病院]
- 担当:吉丸 洋子医師(H14年卒)・福林 光太郎医師(H12年卒)

熊本大学附属病院消化器内科より派遣され、毎月第2土曜日と第4土曜日の午前中に勤務しております。肝臓疾患を専門とし、C型肝炎に対する抗ウイルス治療、B型肝炎に対する抗ウイルス治療、肝硬変の治療を中心に行っております。また大学病院とも連携し肝臓癌の診療も行っております。熊本県は全国から見ても肝炎キャリアが多い地域です。C型肝炎、B型肝炎を放置するといずれは肝硬変、肝臓癌を発症します。まずは検診にてウイルスマーカーのチェックを行って頂き、もし陽性の場合は当科を受診されてください。キャリアの方を早期発見し、抗ウイルス治療など治療介入をすることで肝臓癌をきちんと予防することができます。また最近では脂肪肝の方でも一部の方が肝硬変に進展し、肝臓癌を発症することが知られています。検診で脂肪肝を指摘された方も是非、一度当科外来を受診されてください。天草地域の肝臓疾患の患者さんの診療に少しでも貢献できるようにこれからも頑張っていきますのでよろしくお願い申し上げます。

## 神経内科

- 診療日:月4回／土曜日
- 担当:有馬 寿之医師(H7年卒)・植田 明彦医師(H13年卒)・水谷 浩徳医師(H26年卒)  
池ノ下 侑医師(H26年卒)

神経内科は本年より標榜診療科名が脳神経内科に変更されました。脳神経内科の外来では、パーキンソン病や脊髄小脳変性症などの神経変性疾患をはじめ、多発性筋炎、重症筋無力症などの神経免疫疾患、頭痛やてんかんなどの機能性疾患など幅広い疾患を対象としております。担当医師は熊本大学病院からの派遣であり、毎週土曜日に外来診療を実施しております。手足のしびれ、頭痛、めまい、物忘れなどの症状でお困りの患者さんの原因を特定することや診断後の内服薬管理など天草地区の神経疾患の患者さんの拠点として、毎週土曜日に診療しております。外来患者さんが多く、混み合うことがありますので、受診の際は受診時間をご確認ください。宜しくお願い致します。

## パーキンソン外来

- 診療日:月1回／土曜日
- 担当:後藤 恵医師(S56年卒／徳島大学病院)

## 内 科

- 診療日:毎週金曜日[再診のみ]
- 担当:幸 宏道

# 看護部

当センターは、平成4年開院以来天草地域で急性期病院の役割を担っており、看護部は急性期看護の充実を図りながら、自院の役割が果たせるよう努めてきました。平成18年度診療報酬改定で7対1入院基本料が設置されましたが、平成19年度から人員確保ができ現在も維持しています。今年度9月現在で、看護師216名、准看護師5名、看護助手23名であり、6病棟、外来、手術室、地域連携室などに人員を配置しています。

看護部では、「看護職が互いに支援し合い、持てる力を引き出し、発揮しよう!自分がしたい看護、自分がめざす看護を実践するために」をスローガンに毎年看護部目標を挙げて取り組みを行っています。今年度は、1.看護の質向上を推進する 2.働きやすい職場を作る を挙げ13の看護部実践チームを作り活動を進めています。病院また看護部の課題に取り組むためにはシステム作りが必要であり、各部署の管理者や各チームのリーダーがリーダーシップを発揮できるよう体制を作っています。また、6名の認定看護師がおり、それぞれの分野において院内外で活動を行っています。急性期看護を実践する中、看護の専門性を深めていくために、クリニカルラダー、マネジメントラダーによる人材の育成や看護体制作りに力を入れていきます。今年4月は、新人看護師14名の入社がありましたが、新人教育も計画通り進められており、日々成長を感じています。

そして、チーム医療が進められる中では、それぞれの職種が専門性を発揮することが質の高い医療の提供に繋がることを意識し、他職種とのコミュニケーションを積極的に取れるよう働きかけています。現在、院内に感染対策チーム、栄養管理チームや褥瘡対策チーム、糖尿病チーム、摂食嚥下チーム、緩和ケアチーム、排泄ケアチームなど多職種でのチーム医療が活発に行われていますが、看護の分野で積極的に関わることができます。

また、高齢化率が37%を超える天草地域ですが、地域完結型医療の推進にも力を入れています。急性期病院で一人ひとりにあった退院支援を進めるためには、入院前からの支援が重要であり、入院支援部門と共に現在取り組んでいます。そして、入院直後から退院調整フローチャートを用いて、それぞれの患者に応じた退院を見据えた支援を行っています。現在、在院日数が15日前後と短くなっていますが、看護過程の展開は速くなっていますが、地域連携室と共に対応できるよう努めています。

今年度は、働き方改革が求められており、働きやすい職場環境作りにも前向きに取り組んでいこうと考えています。当看護部は、20代から60代までさまざまな年代の看護職が勤務をしていますが、それらがWLB(ワークライフバランス)も大切にしながら働けるよう、そして「自分のしたい看護・目指す看護」ができるようになりたいと考えています。忙しい中にも、生き生きと看護をしてもらえるよう、今年度も前向きに頑張っていきたいと思っています。



新人研修風景



看護部長  
(認定看護管理者)  
樋口 友子

# 健診センター

当センターは、平成14年に現在の健診センターを開設し、天草地域の保健活動の拠点となるべく、行政の行う健康増進法に基づく健康診断や医療保険者、事業所等による健康診断、人間ドックを実施し、併せて保健指導を行っています。実施にあたっては、併設の天草地域医療センターの協力をえて、医療機関と同レベルの医療精度を保つように努力しています。また講演活動や糖尿病教室への参加等、保健予防活動にも積極的に参加することを旨としています。

近年は、特定健診を基礎と癌検診を2つの柱として健診を行っています。

最近当センターで少し改革がありましたのでお知らせいたします。



健診センター長  
谷村 正憲  
(S51年卒)



健診センター  
牧野 泰博  
(S60年卒)

## 胃内視鏡検査

胃がん検診において、胃透視のみしか有用性を認めていなかった行政も、ようやく平成28年に胃カメラ検査の有用性を認めました。また胃カメラ検査を希望される受診者も増えマンパワーの不足となり、医療センターの消化器内科・外科の先生方に助けていただきおりましたが、2017年10月に牧野医師が、健診の常勤医として赴任し、常時2人で検査できるようになりました。また設備のほうも、2017年9月21日に最新の内視鏡ステーションを2基導入していただき、全受診者にNBIでの検査が可能となりました。徐々に検査件数を増加させるように努力しています。

## 腹部超音波検査

腹部超音波検査は、肝臓・胆道・脾臓といった腹部臓器の難治がんの早期診断には欠くことのできない診断法で、放射線被曝や苦痛もなく装置も簡便なことから、一般診療のみならず任意型検診にも広く用いられています。しかしながら、一般に人間ドック・健診における腹部超音波検査では多数の臓器を扱い、がん以外の病変も対象とすること、がん発見時の記載方法が統一されてないことなどの理由からがん検診としての精度や有効性の評価が行われていませんでした。さらに、超音波検査の診断能は検査環境や検査施行者の技術レベルに依存しますが、実施方法についても明確に規定されていませんでした。そこで日本消化器がん検診学会が中心となり、日本超音波学会、日本人間ドック学会と連携し腹部超音波がん検診の実施基準、判定基準を定め判定区分を含めたマニュアルが作成されました。当センターにおいてもこの基準を導入し、平成29年度よりマニュアルに従って腹部超音波検査を行っています。肝臓、胆道、脾臓、腎臓、脾臓、腹部大動脈、を対象臓器とし、それぞれにカテゴリー分類および判定区分を記すようになりました。副腎や下腹部(膀胱、子宮、卵巣、前立腺、等)は、所見が認められた場合は、記載することとなっています。受診者の方への報告は、今までの様式に準じて報告書を作成しています。今までの基準と若干異なる部分もあり、(肝腫瘍の大きさによる判定・脾嚢胞の大きさによる判定・胆嚢ポリープの記載法の違い・胆嚢壁肥厚の取り扱い等)わかりにくい点があると思います。ご不明の点があれば、電話等でお問い合わせいただければ幸いです。

## 肺がん検診

肺がん検診における胸部エックス線写真的有用性について、疑問が表明されだして、かなりの時がたちますが、いまだに肺がん検診の主体は、胸部エックス線です。地域医療センターに256列MDCTが導入され放射線科吉田先生からの提案もあり、胸部CTにての肺がん検診を推し進めることとなりました。撮影にかかる時間は、5分程度で、被曝量も胸写2枚分程度ですむそうです。また地域医療センターの呼吸器内科が常勤となり、精密検査およびfollow upをお願いすることができるようになりました。そこで昨年3月に私自身が胸部CTでの肺がん検診をうけてみました。前記のように撮影時間も短く、身体的な負担もありませんでした。是多くの方にご利用いただければと思います。